

# pen

with New Attitude

8/1

2010 No.272

定価 600  
yen

完全保存版

ヌードは、  
美しい。

郷愁の地ロシアからたどる、  
シャガールの世界。



## 完熟の果実味を凝縮した、爽やかさが後を引く梅酒。

この花札をラベルにした梅酒がある。梅の里でもある奈良県は八木酒造

が手がける、「花札ラベルシリーズ」の梅酒だ。同蔵が自家蒸留する本格焼酎をベースにした梅酒に、花札では2月にあたる「梅」、「梅に赤短」、「梅に鶯」などの絵柄をラベルに採用。ラベル上には何も書き込まず、花札の絵そのままを使っているのがいい。シリーズのボトルがずらり並べば壮観だ。

「赤短」ラベルの「とろとろ」は、蔵元自らが収穫した完熟梅を使用した自然そのままの味わい。果肉が残った状態なので、酒器に注げば、まさにとろとろ。昔、おばあちゃんが甕で作っていたような懐かしい「我が家の梅酒」みたいだ。甘いけれど自然の酸味もたつぷりとあり、後味はすっきり爽やか



### 「とろとろの梅酒」が飲める店

#### Dining kaze 池袋の風

ダイニングカゼ イケブクロノカゼ

●東京都豊島区南池袋3-16-10 サンライズ南池袋1F  
☎03-3988-7088  
営業11時～15時、17時～24時(月～木)  
17時～深夜3時(金、土、祝前日) 16時～24時(日、祝)  
休第1月曜 JR池袋駅より徒歩4分

# 今宵も一杯

7月は「萩に猪」、8月は「芒に月」。9月は「菊に盃」で、10月は「紅葉に鹿」。勘のいい人はもうおわかりだろう。そう、花札の絵柄だ。

花札は、キリスト教や鉄砲と同じ安土桃山時代初期に伝来した。花札の原型は「かるた」で、ポルトガル語の「Carta」が語源。カステラやコンペイトウと同じルーツなのだ。

花札というだけあって、1年12か月それぞれの月に句を迎える「草花」が描かれ、それに、鳥や動物、人がブラサされ全48枚組になる。季節感も含め一見、和風なだけけれども、なんとなく中国調にも見えるし、よくよく眺めてみると本家ポルトガルの香りも残っているように見える。実際、ポルトガルから持ち込まれた当初はタロットカードだったという話もあるから、ただの数遊びではない、摩訶不思議なニュアンスを醸し出すのも肯ける。

### とろとろの梅酒

Torotoro no Umeshu

生産地 奈良

ラベルに花札の柄をあしらった「花札」シリーズのひとつ。奈良県の八木酒造が手がける。西吉野産の完熟梅果肉をたっぷり使い、旨味と酸味の凝縮した梅酒に仕上がっている。口当たりのよい、さらりとした甘さ。

